

Value Interview

理事長・病院長 就任ご挨拶



2016 SPRING
VOL
23

最新医療

MeDICI プロジェクトで開発支援した
機器の医師主導治験が始まりました

TOPICS

国循の移転について

連携医紹介

減塩食のレシピ



● 国立循環器病研究センター理念

私たちは、国民の健康と幸福のため、高度専門医療研究センターとして循環器疾患の究明と制圧に挑みます。

● 基本方針

- 1 循環器病のモデル医療や世界の先端に立つ高度先駆的医療を提供します。
- 2 透明性と高い倫理性に基づいた安全で質の高い医療を実現します。
- 3 研究所と病院が一体となって循環器病の最先端の研究を推進します。
- 4 循環器病医療にかかわるさまざまな専門家とリーダーを育成します。
- 5 全職員が誇りとやりがいを持って働ける環境づくりを実践します。

Value Interview 5 理事長就任ご挨拶

国内外の循環器医療を牽引する施設として 人材育成と移転地でのまちづくりに注力します

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 理事長 小川 久雄



小川 久雄（おがわ ひさお）／
国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 理事長

〈専門分野〉
循環器疾患全般（特に冠動脈疾患の病態と治療）、
多施設共同臨床研究

〈学会等〉
【理事】
1. 日本循環器学会代表理事 2. 日本心臓病学会理事
3. 日本脈管学会副理事長 4. 日本冠疾患学会理事
5. 日本医学会連合理事 等

〈資格等〉
日本循環器学会認定循環器専門医
Fellow of the Japanese College of Cardiology (FJCC)
Fellow of the European Society of Cardiology (FESC)
Fellow of the American College of Cardiology (FACC)
International Fellow of the American Heart Association (FAHA) 等

2016年2月1日付で国立循環器病研究センター理事長を拝命いたしました小川久雄です。国立循環器病研究センターは1977年7月に開設され、「循環器疾患の究明と制圧」を目標に脳卒中と心臓病の患者さんの専門的治療と研究を行っている世界でも有数の施設です。

当センターは大きくは病院・研究所・研究開発基盤センターの3つの機関からなります。病院では心臓病や脳卒中の超急性期から遠隔期リハビリまで総合的に診療を行います。センター開設の初期からCCU（心臓血管集中治療室）やSCU（脳卒中集中治療室）を設置して24時間体制で高度な急性期治療を実施し

ており、循環器病による死亡や重篤な後遺障害を大幅に減らすことに成功しました。また、2012年には新生児から成人まで幅広い重症心臓病患者さんを搬送できる高性能のドクターカーを導入し、「動く診察室」として搬送中から医師が診察を行う傍らセンター各所と連携を取って到着後すぐに治療ができる体制を確立し、さらなる救命率の向上を目指しています。

臨床現場での問題点解決をテーマとし、研究所では臨床応用が間近なものから10年先を見据えたものまで様々な研究が行われています。寒川賢治研究所長が1984年に発見した生理活性ペプチド

（体内で重要な役割を果たすアミノ酸の結合体）であるANP（心房性ナトリウム利尿活性ペプチド）は重篤な副作用の殆どない心不全治療薬として世界中で広く使用されていますが、ANPにがんの転移抑制作用があることがわかり、昨年から人体での作用を確認する臨床研究を始めました。研究所での成果を臨床に応用するために、研究開発基盤センターが橋渡し役を果たしています。速やかな臨床応用のための臨床研究や試験の支援、当センターで蓄積された知的財産の有効活用などを中心として、診療活動や研究活動を支援しています。

■国循の人材育成制度

最先端の医療・研究現場を支える人材育成の制度も、当センターは充実しています。循環器専門医を目指す医師を対象に高度の循環器医療を学ぶレジデント制度、さらに高度な知識・技術をもつ専門医育成のための専門修練医制度、新たな研究の促進を目的として意欲的な若手研究員を募集する流動研究員制度などがあります。私はレジデント4期生として1981年から1984年まで勤務しました。今年は39期生のレジデントを迎えます。レジデントや専門修練医の出身地は全国におよび、総数は1900名を超えています。私は、その後2000年から熊本大学循環器内科教授を務め、2011年4月から当センター副院長を併任、2015年10月からは専任となりました。2014年4月18日付で80年の伝統がある日本循

環器学会の第17代代表理事となり、2015年4月24日から26日まで大阪で第79回日本循環器学会学術集会を主催しました。当センターとしては国立循環器病センター総長であられた川島康生名誉総長が第60回日本循環器学会学術集会を1996年3月19日から21日まで開催されてから実に19年ぶりの開催で、参加者は18287名という日本では最大規模の学会となりました。そしてこれを機会にレジデント同窓会を企画したところ実に236名もの先生方がお集まりになり盛大に開催されました。

■移転について

当センターは開設から来年で40周年を迎え、建物の老朽化が長年問題となっておりましたが、橋本信夫

前理事長のご尽力により、2013年6月にJR東海道本線岸辺駅前のいわゆる吹田操車場跡地への移転建替が決定しました。新しい国立循環器病研究センターは、駅に直結した長さ270メートル、幅80メートル、地上10階、地下2階の病院、研究所、研究開発基盤センター、企業・大学等の研究者と共同研究を行うオープンイノベーションセンター（OIC）が一体となった巨大な建物であり、2018（平成30）年度を目途に移転いたします。

センターが移転するエリアは、「北大阪健康医療都市（健都）」といい、当センターを中心に吹田市民病院や高齢者向け複合居住施設、健康増進広場、イノベーションパーク等を擁する面積30ヘクタールの医療クラスターとなる予定です。

その基本理念は3つです。第一は「循環器病の予防と制圧」の国際拠点を目指すこと。第二はOICやイノベーションパークを中心としたオープンイノベーションにより最先端医療・医療技術の開発で世界をリードすること。第三はオープンイノベーションに連動した周辺エリアの産業活性化を起こすことです。

陸路、空路の便が良く、近隣にもトップレベルの大学や研究機関が集積する健都を、循環器疾患分野の予防、治療、研究、情報発信等で世界をリードする地域、「健康・医療のまち」にできるよう取り組んでまいります。ご理解とご協力をお願い申し上げます。





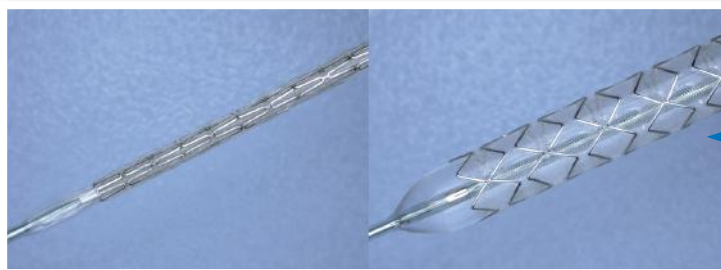
MeDICIプロジェクトで開発支援した 機器の医師主導治験が始まりました

国立循環器病研究センターは、平成23年に厚生労働省の「早期・探索的臨床試験拠点整備事業」の実施施設に選定され、国内の医療機器開発環境の整備を目指す MeDICI プロジェクト（Medical Device Innovation Circumstances Improvement Project（医療機器イノベーション環境整備プロジェクト）の略称）を実施しました。本事業は「世界に先駆けて臨床試験を実施し、日本初の革新的な医薬品・医療機器を創出する」をキャッチフレーズとした、日本初の新規薬物・機器の早期・探索的な臨床試験が実施可能となるようインフラを整備する目的で行われました。この MeDICI プロジェクトにて開発を支援した機器のひとつである巨大脳動脈瘤根治術に使用するカバードステント（写真）に対する治験を平成 28 年 5 月 9 日より開始しました。

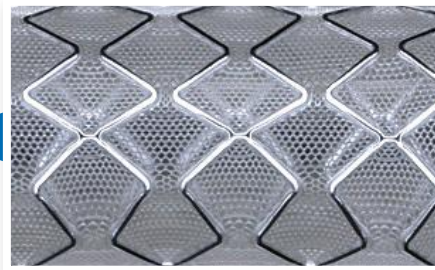
脳動脈瘤に血液が流入すると肥大化・破裂の恐れがあるため、脳動脈瘤への血流を止める治療が施されます。主な治療方法には、頭を開いて脳動脈瘤の付け根をクリップと呼ばれる金属製の器具で止めて脳動脈瘤への血流を止める「クリッピング術」や、動脈瘤を含めた母血管ごと閉塞してしまう「母血管閉塞術」、足の付け根の血管から動脈瘤までマイクロカテーテルと呼ばれる細いチューブを入れてプラチナ製のコイルを瘤内に詰め込んで破裂、増大を防ぐ「脳動脈瘤コイル塞栓術」などがありますが、動脈瘤が大きすぎる場合は従来の術式では血流を完全に止めることができない問題点がありました。

そこで、研究所生体医工学部の中山泰秀室長と病院脳神経外科の佐藤徹医長らが協力し、発案から10年を経て巨大脳動脈瘤の血流を止めることのできるカバードステント（写真）を開発しました。開発から治験開始まで早期に進めることができたことで新しい機器を早く世に出すことができ、より良い治療の提供に役立つことが期待されます。

今回開発したカバードステント



（全体図）



（詳細図）

写真は佛グッドマンより提供

Value Interview Ⅴ 病院長就任ご挨拶 「循環器疾患の究明と制圧」を目指して

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 病院長 峰松 一夫



峰松 一夫（みねまつ かずお）／
国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 病院長

〈専門分野〉内科学（脳血管障害）

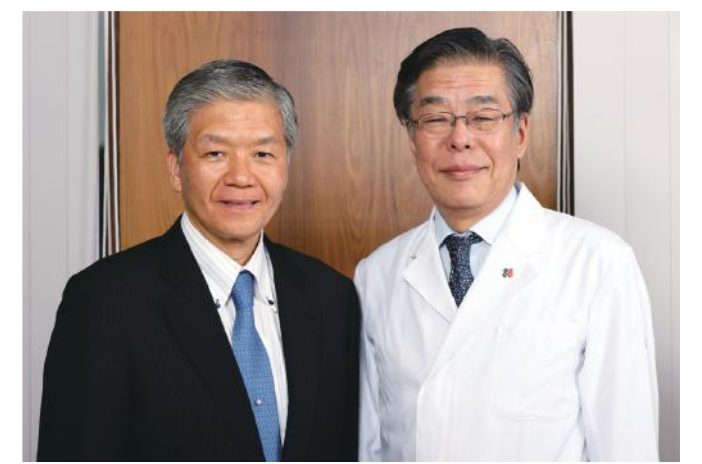
〈国内学会等〉

1. 理事長 日本脳神経超音波学会
2. 運営委員長 日本心血管脳卒中学会（2013年～）
3. 理事 日本脳卒中学会（脳卒中医療向上・社会保険委員会委員長）
公益社団法人日本脳卒中協会（常務理事）等

〈国際学会等〉

1. 世界脳卒中機構 World Stroke Organization (WSO) 理事
2. アジア太平洋脳卒中機構 Asia Pacific Stroke Organization (APSO)
3. 米国脳卒中協会 American Stroke Association (ASA) 評議員 等

循環器疾患は今なお、死因の第2位、要介護疾患の首位を占めています。我々の目標は、未だ道半ばなのです。そして来年は40周年。その先に、吹田市岸部地区、「北大阪健康医療都市（健都）」への移転、後期高齢者が急増する2025年が迫っています。



病 院長の峰松です。通算37年間国循に在籍し、自他ともに認める「国循の生き字引」です。

私は、1977年に九州大学を卒業し、1979年に国循にやって来ました。レジデント、スタッフ医師時代は、大学の先輩であり、国循の病院長・総長を歴任された尾前照雄、山口武典両先生から厳しい指導を受けました。8年間の研究所生活、2年間の米国留学を経て、1995年に脳血管内科部長、2010年に副院長として今年病院長となりました。この間、

脳卒中の診療、研究、人材育成につとめ、副院長時代には、医療サービス、医療安全、病床運用、経営改善、広報等を担当してきました。

国循創設以来の理念は、「循環器疾患の究明と制圧」です。国循は、脳卒中や心臓病等の循環器疾患制圧において、わが国のみならず世界的に見ても旗艦的役割を果たしてきました。この間の診断技術の進歩は目覚ましく、移植医療、人工臓器、再生医療、カテーテル治療、各種薬物療法などの治療技術の発展は驚異的です。しかし、



減塩食のレシピ

一品料理レシピ

揚げ豆腐 生姜羹 葛あん



使用材料（2人分）

角揚げ	140g	《調味料》		《調味料》	
茄子	40g	砂糖	1.2g	砂糖	1.2g
生しいたけ	2枚	薄口しょうゆ	2cc	薄口しょうゆ	1.2cc
ししとう	4枚	塩	0.24g	塩	0.4g
青ネギ	10g	だし汁	100cc	だし汁	50cc
大根	30g	揚げ油	適量	おろし生姜	1g
		おろし生姜	0.5g	片栗粉	1.5g

作り方

作り方・切り方

- ①角揚げは一人前35g位の角切りの物を2個付けにし、熱湯で油抜きをしておく。
- ②茄子は20g大に切る。
- ③生しいたけはいしずきを取っておく。
- ④ししとうは竹串等で穴を開けておく。
- ⑤青ネギは小口切りにしておく。
- ⑥大根はおろしてざる等で水気を切っておく。



仕上げ・盛り付け

- ①茄子とししとうは中温（170度）の油で素揚げにしておく。
- ②Aの調味料で八方出しを作り、一度沸かしたものを50cc位取り生姜を加えて冷ました茄子とししとうを漬けておく。
- ③残りの八方出しで角揚げとしいたけを弱火で10分程煮ておく。
- ④Bを鍋に入れて、弱火にかけとろみがつくまで混ぜる。とろみが付いたら中火にし、水気を切った大根を入れ、泡立て器等を使ってむらなく混ぜ合わせる。
- ⑤器に角揚げ、しいたけ、茄子、ししとうを形良く盛り、上から生姜羹あんをかけて青ねぎを天盛りにする。

連携医紹介②



内科・小児科・皮膚科

医療法人拓晃会 よこかわクリニック

先日、夜の、当院の前の歩道で心肺停止を起こされた方がいらっしゃいました。通りがかりの方が連絡、私共が救急蘇生を試みる間も、多くの町の方々が集まって来てくださって声をかけてくださいました。小生は心肺蘇生をしながら、町の暖かさを感じました。一度帰路についた研修医も妙な雰囲気を感じ取ってすぐに戻ってきて心肺蘇生の手伝いをしてくださいました。それでも、心肺停止のまま重苦しい雰囲気に包まれて病院に搬送されて行かれました。幸いその日のうちにその方は意識が戻り、先日退院されてお越しく下さいました。私たちの眼前では、重苦しい結果を目の当たりにすることが多く、後からうれしい知らせを聞くまでの何十時間は繰り返す自問自答の連続です。

近年、在宅診療の需要が再び多くなってきています。緊急に備えてドクターカー（と自分で呼んでいる消防車のような自家用車）は、いつも整備されていますが、小生はこれに乗るのがあまり好きではありません。病気を背負う家族だけが、孤立してつらい目をするのがない町になってほしいなあと思う次第です。



院長 横川 晃治 先生
〒564-0083 吹田市朝日が丘町 26-3
TEL: 06-6378-2080 FAX: 06-6378-2081
【診療科目】
内科・小児科・皮膚科
・脳卒中予防・再発予防指導
・血圧検診・心臓に関する健康相談
・血液に関する健康相談

当院では、通院困難な方への内科の訪問診療を行なっております。月・火・水の午後の訪問を予定しております。詳しくは受付までお問い合わせ下さい。

【診療時間】

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日
小児科	9:00~11:45	○	○	○	○	△	○	—
内科	17:00~18:45	○	○	○	—	○	—	—
皮膚科	9:00~12:00	○	○	○	—	○	○	—
	17:00~18:45	—	※	—	—	※	—	—

【休診日】

日曜、祝日、木曜日（皮膚科）

※△は受付 11:30 まで。

※皮膚科の午後診療（火曜・金曜）は予約診療となります。お電話で予約を承ります。

<http://www.myclinic.ne.jp/yokokawa/pc>

Topics

国循の移転について



「こくじゅん通信」では国循の移転建替について何度か取り上げたことがありましたが、今回は全体的な計画や現状についてさらに詳しくお伝えいたします。

国循の建物

新しい国循の建物は、地上10階、地下2階建てで、総床面積12万8千平米を予定しています。JR東海道線岸辺駅直結で、また名神高速道路吹田サービスエリアにスマートICの設置が検討されるなど、交通アクセスが現在よりも大幅に改善されています。また、国循の内部に企業や大学等の研究者と共同研究を実施するための「オープンイノベーションセンター（OIC）」を設置します。

新しい国循が 目指すもの

新しい国循は以下の3つを目標とします。

- 地域に密着しつつ、ナショナルセンターとしてのミッションである「循環器病の予防と制圧」の拠点を目指します。
- オープンイノベーションにより、最先端医療・医療技術の開発で世界をリードします。
- オープンイノベーションに連動したエリアの産業活性化により、国際級の複合医療産業拠点（医療クラスター）を形成します。

移転地 「健都」について

国循が移転するいわゆる吹田操車場跡地では、国循を中心とした循環器病の予防や健康づくりのための一大医療クラスターの形成を目指します。国循の建物の隣には市立吹田市民病院が移転し、企業などを誘致し新規開発や事業化等を支援するためのイノベーションパークが新設、さらには利用者や職員のための複合商業施設や健康増進広場なども設けられる予定です。

JR 東海道沿線から見た 景観イメージ



国立循環器病研究センター
（平成30年度完成予定）

健都イノベーションパーク（4ha）
医療系企業・大学・研究機関等を誘致

吹田市民病院
（平成30年度開院予定）

生活利便施設等
医療クラスター支援施設

都市型居住ゾーン
（職員宿舎・マンション等）

岸辺駅から国循入口には、
空中デッキで直結

全長3km 超の緑の遊歩道

国循主導で企業・大学等の研究者と共同研究を行う拠点、約1万㎡の
オープンイノベーションセンター（OIC）の整備

熊本地震被災地への医療チーム派遣について



国 循は、熊本県からの要請により平成 28 年 4 月 21 日から 23 日にかけて熊本県の被災地に支援チームとドクターカーを派遣いたしました。

4 月 21 日に熊本県庁の対策本部に入り厚生労働省・熊本大学・熊本市市民病院の関係者と会議をもち、現地で懸念が高まっている「エコノミクス症候群」のスクリーニング検査を避難所で行いました。

心臓血管内科部門医師 川上 将司

4 月 22 日には避難所① アクアドーム(熊本市)、避難所② エミナース(益城町)において、熊本大学・熊本市市民病院の医師と共同で問診・診察、下肢エコー、血栓の傾向を調べる D dimer 測定、生活指導、弾性ストッキング配布を実施しました。支援チームは 4 月 23 日に帰阪しました。今回派遣チームの報告を受け、過去の震災における当院での経験をもとに、また現地関係者とも連携し、被災地のニーズに応じた支援活動を継続してまいります。



交通アクセス

鉄道利用の場合

- 地下鉄御堂筋線・北大阪急行線千里中央駅から
- 阪急バス 5 番乗場(一部 6 番乗場) 「循環器病センター前」下車(15 分)
- タクシー (3.4 km, 10 分)
- 阪急電鉄千里線北千里駅から
- 阪急バス 5 番乗場 「循環器病センター前」下車(5 分)
- タクシー (1.3 km, 3 分)
- 徒歩 (15 分)
- 東海道線・新幹線新大阪駅から
- 地下鉄御堂筋線千里中央行 千里中央駅下車(18 分)

※阪急バスをご利用の方は急行など一部当センター前に停車しない便がありますので、乗車前に十分ご確認ください。

航空機利用の場合

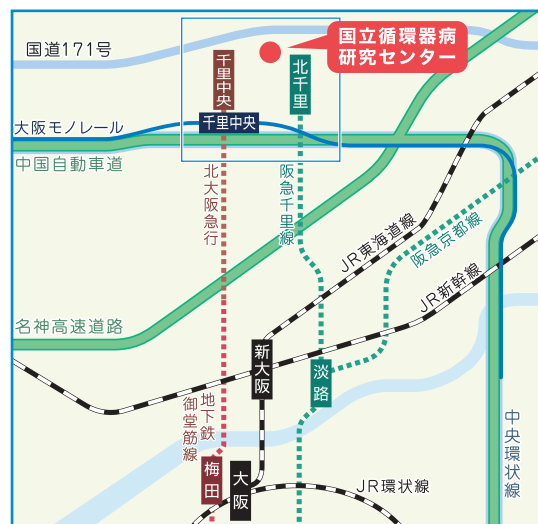
- 大阪国際空港(伊丹)から
- 大阪モノレール 千里中央駅下車(12 分)
- 千里中央にて阪急バスに乗り換え 阪急バス 5 番乗場(一部 6 番乗場) 「循環器病センター前」下車(15 分)
- タクシー (20 分)

※阪急バスをご利用の方は急行など一部当センター前に停車しない便がありますので、乗車前に十分ご確認ください。

自動車利用の場合

- 名神高速道路沿線から
- 吹田 IC より約 10 分
- 茨木 IC より国道 171 号線今宮を経て約 20 分
- 近畿自動車道沿線から
- 吹田 IC より約 10 分
- 中国自動車道沿線から
- 中国池田 IC より中央環状線千里中央を経て約 20 分

※無料直行バスは、2015 年 12 月 28 日をもって廃止いたしました。



【お問い合わせ】

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 〒565-8565 大阪府吹田市藤白台 5 丁目 7 番 1 号
国立循環器病研究センター総務課広報係 TEL: 06-6833-5012 (代) <http://www.ncvc.go.jp>

